

1948年の福井地震で大和百貨店に一体何が起っていたのか？



☆ある地震啓蒙書に『福井地震の際に大和百貨店で買物客のほとんどが圧死した』との記述があることを知る。[2009年8月]

☆そんなはずはないが再確認してみることに・・・

☆当時の新聞記事を再確認

大和百貨店が全壊したこと、やがて解体されたことの記事はあったが、人的被害の有無については記載なし。

新聞に多数の震災見舞、見舞御礼の広告が掲載されていることに着目。大和百貨店が掲載した**震災見舞御礼の新聞広告**を発見！『建物は全壊するも人命には損傷なく』

☆大和デパートへ調査依頼

金沢市の大和デパート総務課へ震災関係の資料提供を依頼したところすぐさま応答があり『大和50年のあゆみ』と『井村徳二伝』の存在を知ることができた。結果として、買物客が圧死したとの事実は存在しないことが確認できたが、これまで当方で認識していた内容にも間違いや勘違いがあったことが判明した。買物客は居なかったが、**125名もの従業員が職場集会のため6階食堂に集まった時に地震に遭遇し、犠牲者を出さずに避難に成功していた！**

何と閉店で買物客が退出してから15分弱のうちに地震は発生していた！

☆新たな聞き取り調査

125名もの従業員の人達はどのようにして全壊建物から脱出できたのか？

大和デパートの協力を得て関係者へのアンケート調査を実施し、当時のことを覚えておられた3名の方々にインタビューを行った。[2009年12月]

従業員の方々は実に整然と避難しておられたことが判明した。そのうちのお一人は地震の2,3日後に忘れた傘を取りに6階までもう一度上がっていた！

そのことがあってから『弁当箱を忘れても傘を忘れるな』という警句が福井にあることをどなたかから教えていただいた。

新聞広告をヒントに

☆右の広告内容からは買物客が被災したとは考えにくい。

☆結局、大和百貨店は地震の後再建できなかった。

北国毎日新聞に掲載された大和百貨店の震災見舞御礼の新聞広告(昭和23年7月6日)

謝震災御見舞

今回当社福井店罹災に際し御懇篤なる御見舞を頂きましてまことに有難く厚く御礼申し上げます。全壊致しましたが人命には損傷なく幸に存じております。緊急再建致し物資調達和使命達成のため全力を挙げてまい進致します。故何卒この上とも御支援の程お願い申し上げます。

昭和二十三年七月四日

株式会社大和

社長井村徳二

昭和四十七年九月二十一日 印刷
昭和四十七年九月二十七日 発行

大和五十年のあゆみ

編集 大和五十年史刊行委員会
発行 株式会社大和印刷社

刊行 株式会社大和印刷社
印刷 株式会社大和印刷社

井村徳二伝

昭和四十年四月十八日 発行

著者 新保辰三郎
発行所 井村徳二伝記刊行会
金沢市片町七十一番地

印刷製本 株式会社大和印刷社
明治印刷株式会社

株大和の金沢本店から提供された2つの文献

福井地震と福井店（昭和23年）

空襲をうけてから七日目で仮店舗で営業を開始した不死鳥の如き福井店は、昭和二十三年六月ともなると、一階から六階までが戦前どおりの姿に復旧工事完了、中元大売出しを控えて西野浅雄支配人以下はり切って商品の充実に努めていた。

その六月二十八日、午後五時十八分、不気味な地震きとともに福井全市に地震が襲った。大音響とともに六階の床が五階に墜落、おりから従業員大会で全員が六階に集まっていたので、はからずも全員百二十五名一致の行動がとれ、怪我人を少々出しただけで、六階食堂の煙突がぐあいよく折れてくれたのを伝って、全員脱出に成功したのは全く天祐神助の感があった。衆議院議員として東京に在った井村社長は、即刻内閣に福井震災対策本部をつくり、そこに詰め切って具体的な援助に努力した。

この福井店の被災は、彼自身が自分の好運に驚いたほどで、建物は実は東京進出のさいに必要なだった土地との交換で、すでに井村の手をはなれ、賃貸契約が成立していた。井村から福井店をゆずりうけたのは、職物景気でその年の日本一の高額納税者になった加藤尚であった。

『大和五十年のあゆみ』

北国出版社 昭和四十七年九月二十七日発行

より抜粋引用

震災前後の 大和百貨店

谷口仁士編：よみがえる福井震災 1998 より

東方上空より

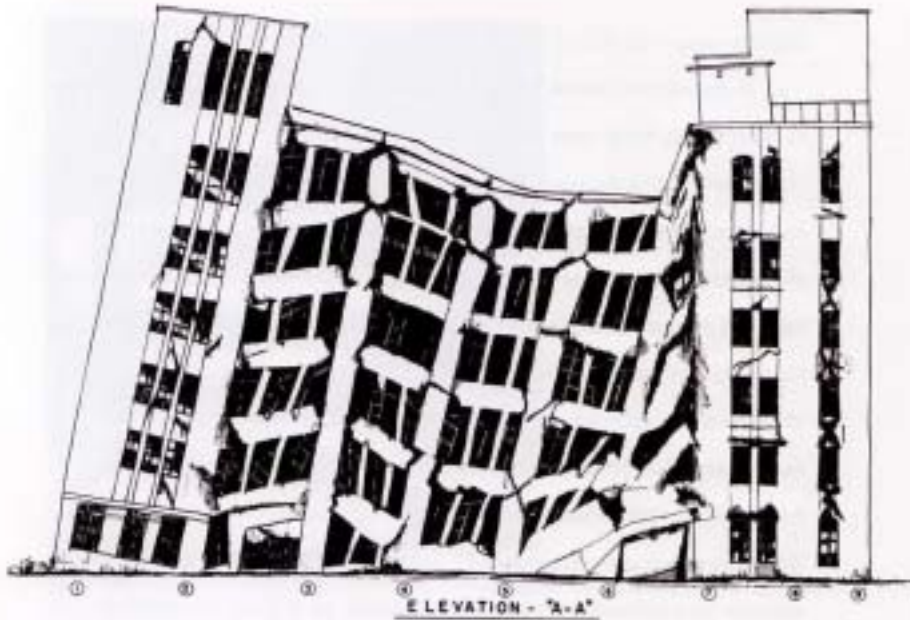


西方上空より

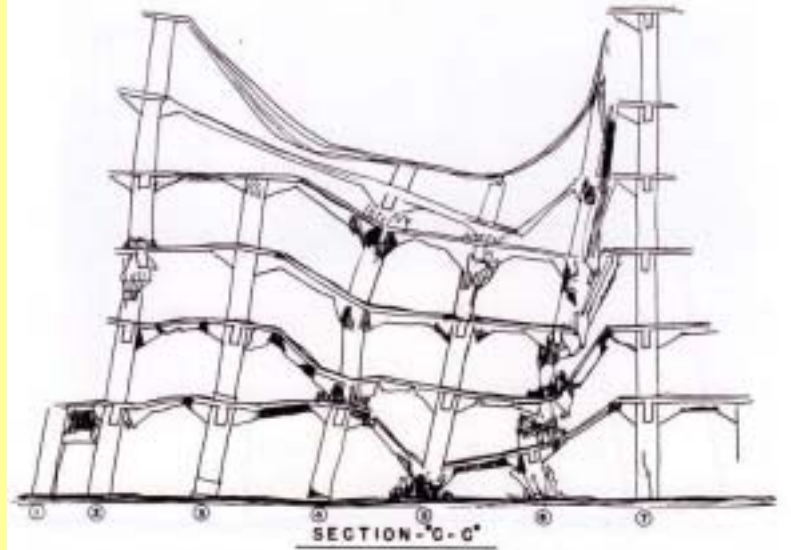


南西方向上空より

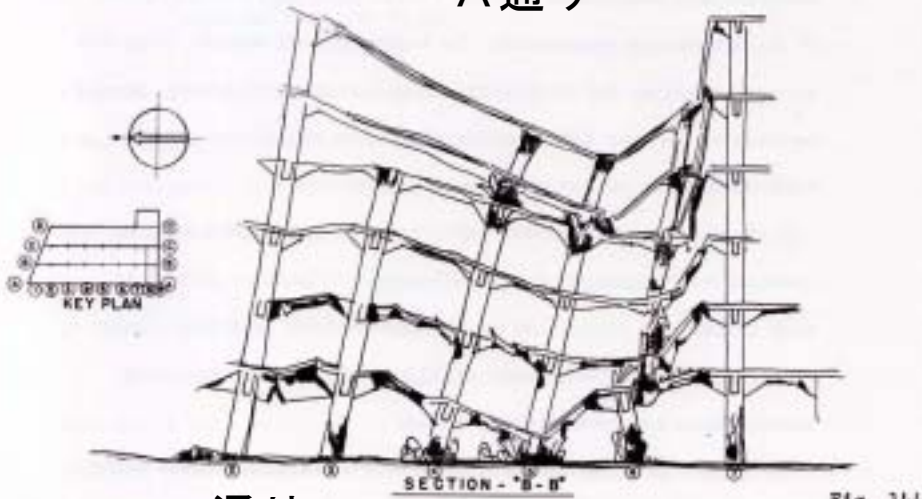




A 通り

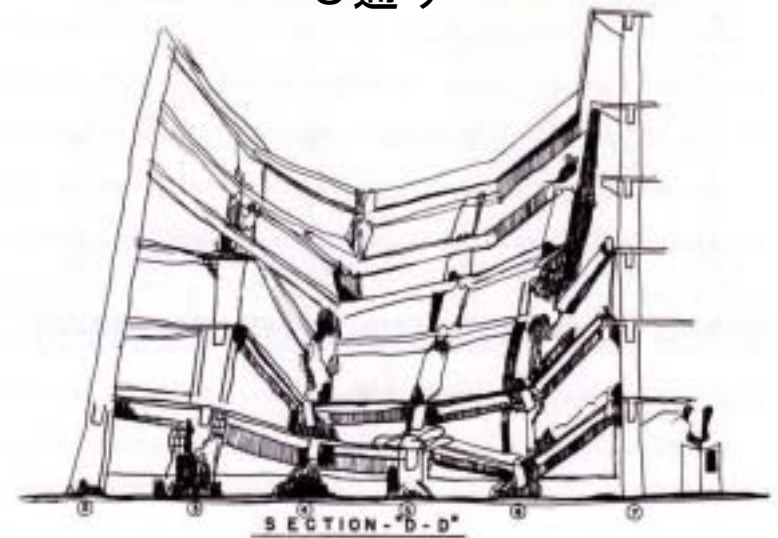


C 通り



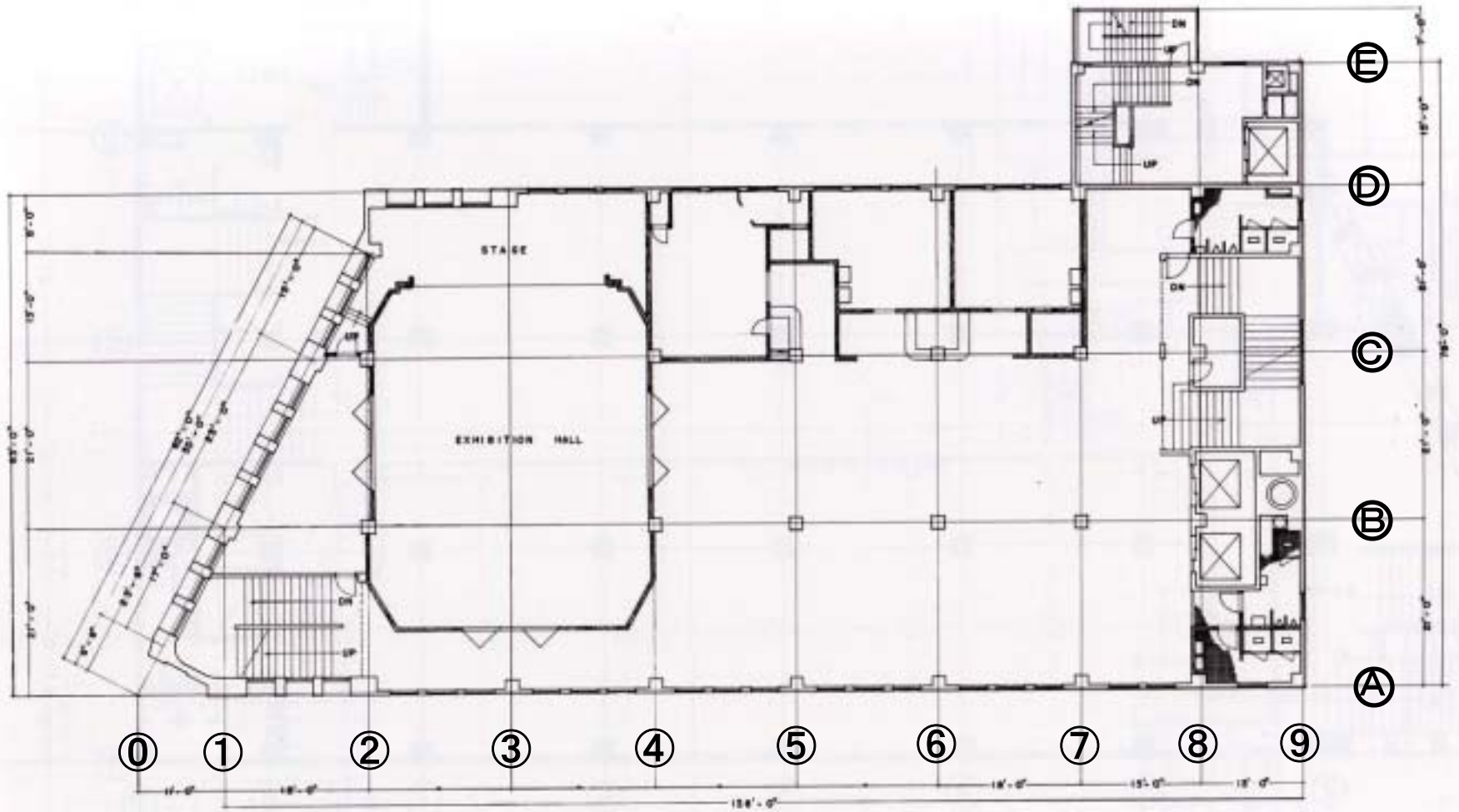
B 通り

Fig. 144



D 通り

A~D各通り断面毎の被災状況



大和百貨店 5 階平面図